

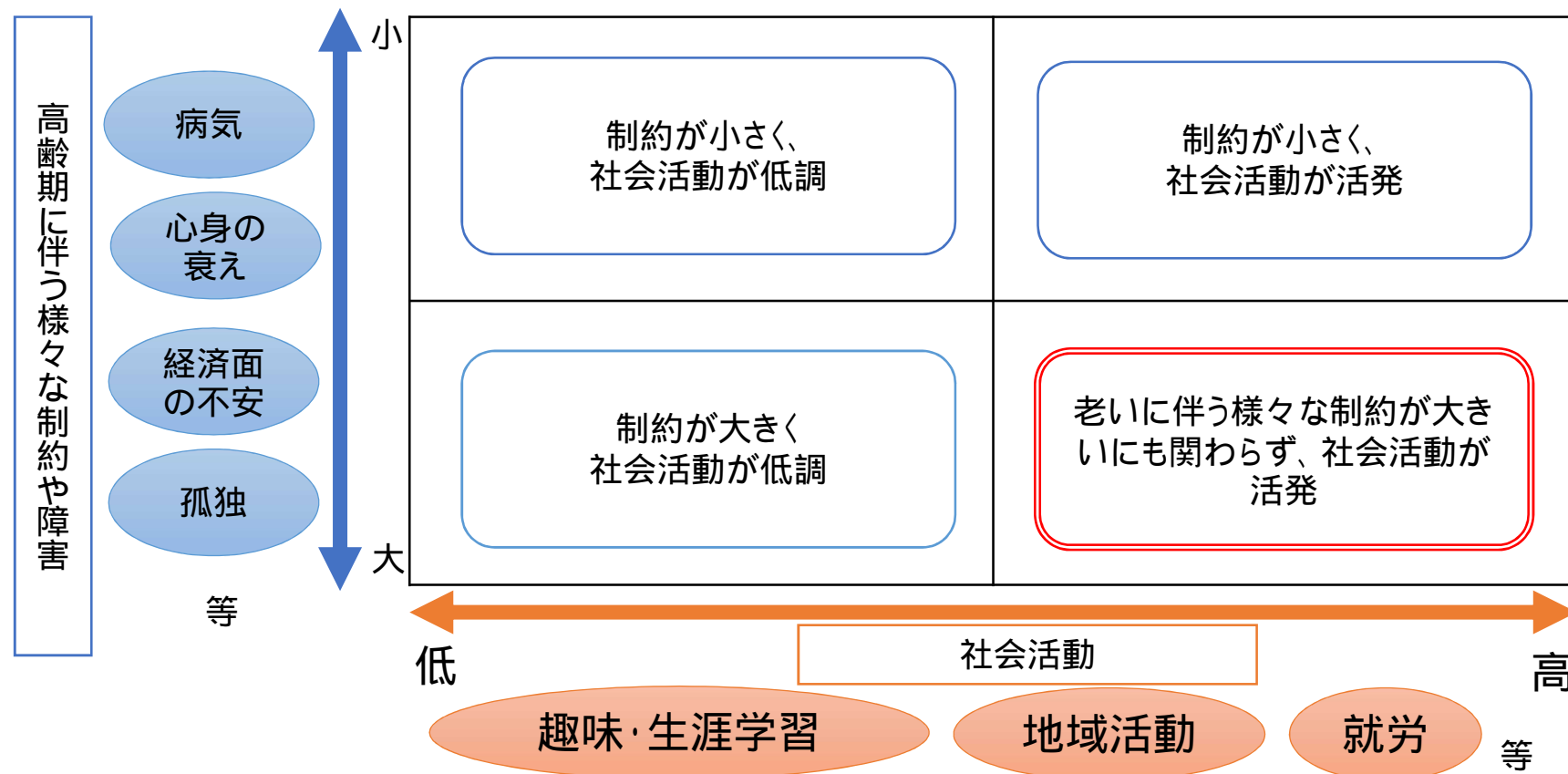
今後の調査内容等について

調査目的

人生100年時代において、長寿を喜び、楽しみながら、高齢期をポジティブにワクワクして生きるライフスタイルを構想していくために、高齢期の様々な生活像(ライフスタイル)について調査を行う。

調査対象

○老いに伴う様々な制約や障害にも関わらず、高齢期をポジティブに過ごしている方を中心に、様々な活動分野(生涯学習・地域活動・就労等)や地域ごとに調査対象として30人程度選定する。



○調査対象地域については、人口密度や都市化の度合い、高齢化率などを指標として、県内の様々な圏域から偏りのないよう選定する。(着眼点:自治会活動が盛んな地域、1960~80年代にできた団地、親世代から引き継いだ集落等)

調査方法

- 調査対象者との面談形式でのインタビューを中心とした調査により、高齢期に伴う様々な制約をどのように乗り越えたのか、現在のライフスタイルをとるに至ったターニングポイントなど、既存の定量的調査では把握することが困難な個々人のライフスタイルやその行動に至る経緯を把握し、高齢期をポジティブに生きるための示唆を得る。

調査項目

- 高齢期に伴う制約や不安を感じているか。どのようにその制約や不安を乗り越えているのか。
- 社会活動に参加するきっかけ、動機
 - 就労の場合は、働き続ける理由
- 社会活動に参加するに至った背景、考え方、価値観
- 今楽しいと感じること、そのように感じる理由
- そのように考えるに至った経験、人生におけるターニングポイント。これまでのライフステージでどのように考え方や価値観が変わったのか。
- 自身が考える「自分らしさ」「自分らしい生き方」とはどのようなものか。
- 自身が社会活動に参加する上で、必要と思われる行政や地域、家族からの支援
- 自分以外の同世代が社会活動に参加する上で、必要と思われる支援